

しのはら りゅうすけ
篠原 隆介ゼミナール

1. ゼミのテーマと目標

テーマ: ゲーム理論と公共経済学

目標: ゲーム理論と公共経済学を正しく理解した上で応用し、人々や企業の行動、政府活動や経済制度デザインなどを考察すること。

2. ゼミの運営について

- ◆ 教科書を指定し、ゼミ生がその内容について報告する形でゼミを進める予定です。ちなみに、2017年度は、神取道宏著『ミクロ経済学の力』(日本評論社)を教科書として指定しました。
- ◆ 夏期休暇に課題を与える予定です。内容は、年度によって異なりますが、経済学を学ぶ上で必要な数学の課題またはゼミの教科書に関する課題を与えています。

3. 担当教員について

- 氏名: 篠原 隆介
- 担当科目: 公共経済論 A&B など
- 研究領域: 人はなぜボランティアをする (or しらない) のか、人はなぜサボるのか、嫌な仕事は誰が引き受けるのか、富士山の入山料は誰が払うのか等を包括的にミクロ経済学とゲーム理論を用いて考察しています。

4. ゼミ見学, HP

- ★ ゼミ見学: 10/17(火), 24(火), 11/21(火), 15:10~16:40, 125 番教室
- ★ ゼミの学習履歴を紹介する HP: 過去に使用した教科書や資料などは、次の HP で確認できます。
http://ryusukeshinohara.ehoh.net/hosei_shinohara_zemi.htm

5. 担当教員から

経済経 済と言うと、景気(好不況)、金融、財政、国際貿易などの単語を真っ先に思い浮かべる

かもしれません。確かに、これらのニュースは新聞・テレビで頻繁に見聞きしますし、我々の生活にとって重要なものなので、経済学を通して考察されるべき問題であることは、間違いありません。しかし、経済学の対象は、これだけではなく、我々の身近にも存在します。例えば、まさに今、皆さんが経験している「ゼミ選び」も、経済学の対象となります。私が、ゼミ選びから思い起こすのは、ティブーの「足による投票理論」です。ティブーの理論は、住民の居住地選択と資源配分の効率性に関するもので、もちろん、ゼミ選びを想定しているわけではありません。しかし、住民が居住地を選択する状況と学生がゼミを選ぶ状況には、多くの類似点があります(例えば、ゼミで提供される教育サービスが、地方公共財と似た性格を持つことなど)。彼の理論は、ゼミ選びに対しても、示唆に富んだ指摘を与えると考えられます(ティブーの理論の詳細については、公共経済学の教科書を参照してください)。

経済学を学び、経済学を通して物事を考えられるようになること。これが、私のゼミの目標です。ゼミでの学習活動に積極的に参加する学生の応募を待っています。ともに学び、ゼミを刺激的なものにしていきましょう!

